

ABC検診

ABC検診とは

(一財)順天厚生事業団

2項目の血液検査で胃がんになりやすいかを調べる検査です。
胃の粘膜の萎縮の状態を調べるペプシノゲン検査とピロリ菌がいるかどうかを調べるピロリ抗体検査の組み合わせによって、判定されます。

胃がんになりやすい人とは・・・

遺伝的因子や喫煙や多量の飲酒、ストレスなどがあります。
しかし、胃がんには、ピロリ菌感染(ピロリ菌を持っている)が深く関わっています。
ピロリ菌感染のない方から胃がんが発生することは、まれだと言われています。
また、ピロリ菌感染によって胃粘膜の萎縮が進むほど、胃がんが発生しやすくなります。

ABC検診の判定の見方

	ピロリ抗体(-)	ピロリ抗体(+)
ペプシノゲン(-)	A	B
ペプシノゲン(+)	D	C

* ペプシノゲン(+) 胃の粘膜の萎縮があります。
ペプシノゲン(-) 胃の粘膜の萎縮がない状態です。

ピロリ抗体 (+) ピロリ菌が胃の中にいます。除菌治療後6ヶ月程度、胃の中にいなくても、(+)になることもあります。

ピロリ抗体 (-) ピロリ菌が胃の中にいない可能性が高いです。

A判定 健康な胃粘膜で胃の病気になる危険性は低いですが、
でも、喫煙や飲酒、暴飲暴食、ストレスに注意しましょう。

B判定 少し、弱った胃です。
ピロリ菌がいることにより、胃粘膜が萎縮しやすい状況です。
喫煙や飲酒、暴飲暴食、ストレスにより胃・十二指腸潰瘍になりやすいので、注意しましょう。

C判定 胃がんなどになりやすいタイプです。
ピロリ菌がいることや生活習慣(喫煙、飲酒、暴飲暴食、ストレスなど)により、胃の粘膜は萎縮しています。内視鏡検査を受けることをお勧めします。
内視鏡検査で異常がなくても2年に1回は定期的に内視鏡検査を受け、胃の病気の早期発見・早期治療に努めましょう。

D判定 胃がんなどになりやすいタイプです。
胃の粘膜が萎縮し、ピロリ菌が存在しても検査であらわれないことが大半です。早めに内視鏡検査を受けてください。内視鏡検査で異常がなくても年1回は定期的に内視鏡検査を受け、胃の病気の早期発見・早期治療に努めましょう。